

ASEAN グローバルプログラムで 得たもの

大西 祐輝
Yuki ONISHI
電子情報学科 2年

1. はじめに

2018年8月28日から9月6日にかけてベトナムのハノイとシンガポールにて、企業の見学、ハノイ工業大学生とのPBL (Problem Based Learning), NTU (南洋理工大学) の見学, 日本人ビジネスマンとのトークセッションを含む ASEAN グローバルプログラムに参加した。このプログラムの具体的な研修日程を以下に示す。

表1 研修日程

8/28 (火)	ベトナム入国, オリエンテーション
8/29 (水)	企業訪問
8/30 (木)	ハノイ工業大学生との PBL
8/31 (金)	ハノイ工業大学生との PBL
9/1 (土)	自由行動
9/2 (日)	シンガポール入国, 企業訪問
9/3 (月)	NTU 見学, NTU 学生との交流
9/4 (火)	企業訪問, ビジネスマン交流会, 講演会
9/5 (水)	自由行動
9/6 (木)	帰国

2. 参加目的

私が今回このプログラムに参加した目的は3つあった。1つ目は、日本では経験することのできないことを海外で学ぶ大きな機会だと考えたからである。2つ目は、日本国内では英語を話すという機会が圧倒的に少ないと感じ、自ら海外へ身を置くことで英語にふれあう機会を増やすためである。3つ目は、自らアクションを起こし海外の人とコミュニケ

ーションをとることである。アクションがなければリアクションがないことを踏まえて、積極的に行動し、何事にもチャレンジするということである。私自身、海外へ行ったことがなく本プログラムに参加することに不安を持っていたが、それ以上に自分を成長させたいという思いが強くあった。また、その経験が必ずこれからの人生で大きく影響するものになるだろうと感じた。

3. 研修内容

本プログラムの研修のうち私の中で特に印象に残ったベトナムでの栄光堂と Rikkei Soft の企業訪問と、シンガポールでのビジネスマンとの交流会の2つを書くこととする。

3.1 ハノイでの企業訪問

8月29日(水)に訪問した企業は、ベトナムの日系企業であり、今回のPBLでご協力いただいた栄光堂と、日本の立命館大学、慶応義塾大学を卒業したベトナム人5人が共同で立ち上げたIT会社である Rikkei Soft の2社であった。栄光堂では会社説明と、海外で働くことについての講演と、工場見学をした。そこでは日本で行っている方法と同じ製法で餡を製造し、販売していた。工場長様の話では、餡を作るそれぞれのラインを専門的に行う人材を育成しているということであった。これは人を定期的に入れ替えると、商品の品質にばらつきが出たためである。また、産休などでどうしても人を入れ替えなければならない場合は、事前に違う人を教育するなどの対策をしている。また、教育が追いつかない場合、工場のラインを停止することもあるそうだ。こういった運営方法が日本品質の餡を製造できている秘訣なのではないかと感じた。外国のマーケットに進出する際にどうしたら自社の商品が売れるようになるか、現地の競争を把握することや、どのマーケットに売れるかを判断する必要があるとともに、自社の知名度をどのようにして上げるかを考えることが重要なことだと学んだ。



写真1 Rikkei Soft での交流

Rikkei Soft では社員さんとの交流を行った。ここではベトナム人の社員がほとんどであったが皆さん上手に日本語を話していた。そのため自己紹介など日本語で話すことができた。Rikkei Soft の社員は優秀な方々ばかりで、私が話した中にはベトナムで一番良い大学を卒業した人などがいた。また私が、大学でプログラミングをやっていると云ったら、これからとても重要になることしっかりと取り組むようアドバイスをもらった。さらに、彼らは、日本の品質管理にこだわった仕事内容を実現し、常にお客様に満足していただける会社をめざしていると話していた。そういった取り組みで今ではたくさんの企業から依頼が来るようになったそうだ。社内の雰囲気づくりは日頃から様々な企画を立てて社員同士の関係を深めているということであった。私たちが訪れた時、ベトナム代表のサッカー試合があり試合開始の16時になると、皆さんがテレビの前に集まって楽しそうに観戦しているのを見ると、この会社では社員同士の関係が深く、とても素晴らしいと感じた。

3.2 シンガポールでのビジネスパーソン交流会

この交流会では、実際にシンガポールで働いている日本人の方々とお話をした。私がこの交流会で一番印象に残っていることは、加藤さんの講演である。加藤さんは投資家であり、「若者よ、アジアのウミガメとなれ」の著者でもある。加藤さんの講演



写真2 加藤さんの講演

の中で特に印象に残ったことは良い友達を作ることであった。ただの友達ではなく、高い意識を持った人と出会い、過ごす事の大切さを感じた。私自身、周りに流され自分自身の能力の限界を決めてしまい、自分の成長を抑制してきた経験がいくつもあった。しかし環境が人を作るとは、まさにそういった人との関わりなのだということも学ぶことができた。自分のしたいこと、やりたいことで、世界で生きていく。そんな加藤さんはとても生き生きとしていて常に向上心を持ち続けている方であった。私もそんな風になりたい、そうありたいと強く感じた。

4. おわりに

私は今まで日本国内でごく普通に働き生活しようと思っていたが、自分自身の意識が変わるかもしれないと思いこのプログラムに参加した。ここで得たものは、参加前に想像していたよりもよりのよはるかに意義深いものであった。初めて海外に行き、英語でのコミュニケーションやディスカッションなど、すべてが初めてで、戸惑うことの連続であった。それでもなんとか自分の言いたいことを伝えるために画像を使って説明したり、しぐさを大げさにしたりすることでコミュニケーションをとった。そういった経験から、他人に自らの考えを伝えようとする力を培うことができた。このプログラムで得たものを今後にしっかりと生かせるようにしたい。